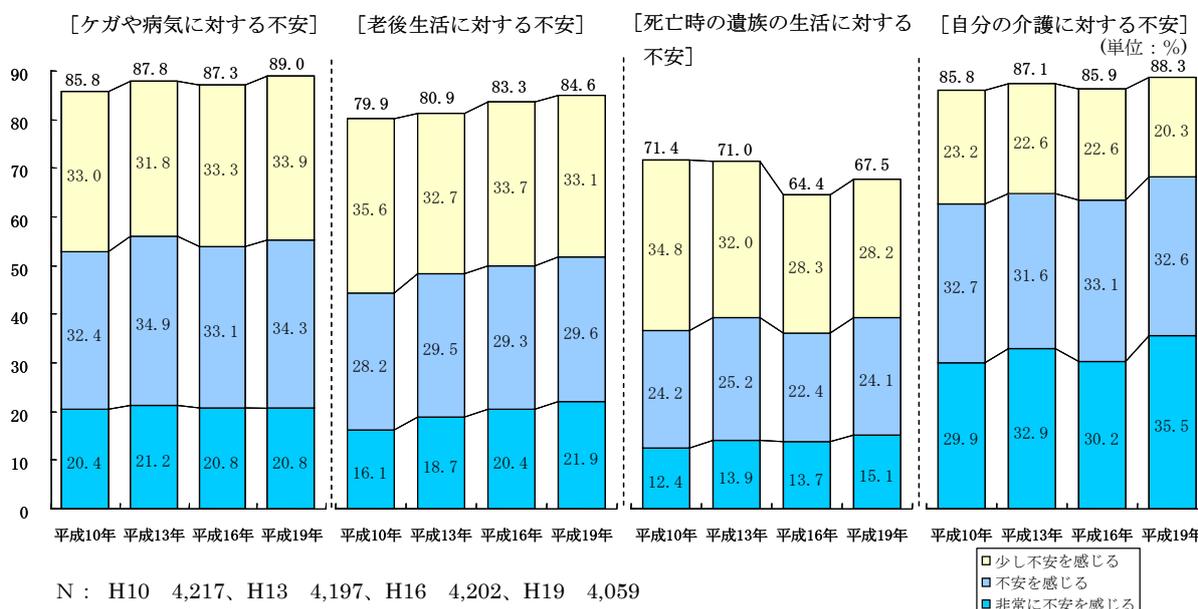


I. 生活保障に対する不安意識の高まり

①生活保障に対する不安意識が増加

医療、老後、死亡、介護の4つの保障領域に対して不安があるとした人の割合をみると、「ケガや病気に対する不安」が89.0%と最も高く、次いで「自分の介護に対する不安」(88.3%)、「老後生活に対する不安」(84.6%)、「死亡時の遺族の生活に対する不安」(67.5%)の順となっている。いずれの保障領域も概ね増加傾向にあるが、「死亡時の遺族の生活に対する不安」が前回より3.1ポイント増加している。

図表1 保障領域別の不安意識（「不安感あり」の割合）



N：H10 4,217、H13 4,197、H16 4,202、H19 4,059

\*保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。

保障領域別の不安意識を年齢別にみると、「死亡時の遺族の生活に対する不安」は30～40歳代で高く、他の3つの保障領域では40～50歳代で高くなっている。また、「死亡時の遺族の生活に対する不安」は30～40歳代で増加している。

図表2 保障領域別の不安意識（「不安感あり」の割合）（年齢別）

	ケガや病気に対する不安			老後生活に対する不安			死亡時の遺族の生活に対する不安			自分の介護に対する不安		
	平成16年	平成19年	19年-16年	平成16年	平成19年	19年-16年	平成16年	平成19年	19年-16年	平成16年	平成19年	19年-16年
全体	87.3	89.0	↑1.7	83.3	84.6	1.3	64.4	67.5	↑3.1	85.9	88.3	↑2.4
20歳代	75.8	80.3	4.5	68.3	72.6	4.3	52.7	58.6	5.9	69.7	77.3	↑7.6
30歳代	87.9	89.4	1.5	84.8	86.4	1.6	73.9	79.1	↑5.2	86.4	87.4	1.0
40歳代	91.3	93.0	1.7	89.1	90.8	1.7	72.0	76.6	↑4.6	90.4	93.0	2.6
50歳代	89.2	91.3	2.1	87.5	89.5	2.0	63.6	65.2	1.6	89.3	92.9	↑3.6
60歳代	89.4	89.5	0.1	84.3	81.9	-2.4	60.4	59.1	-1.3	89.1	89.4	0.3

（単位：%）

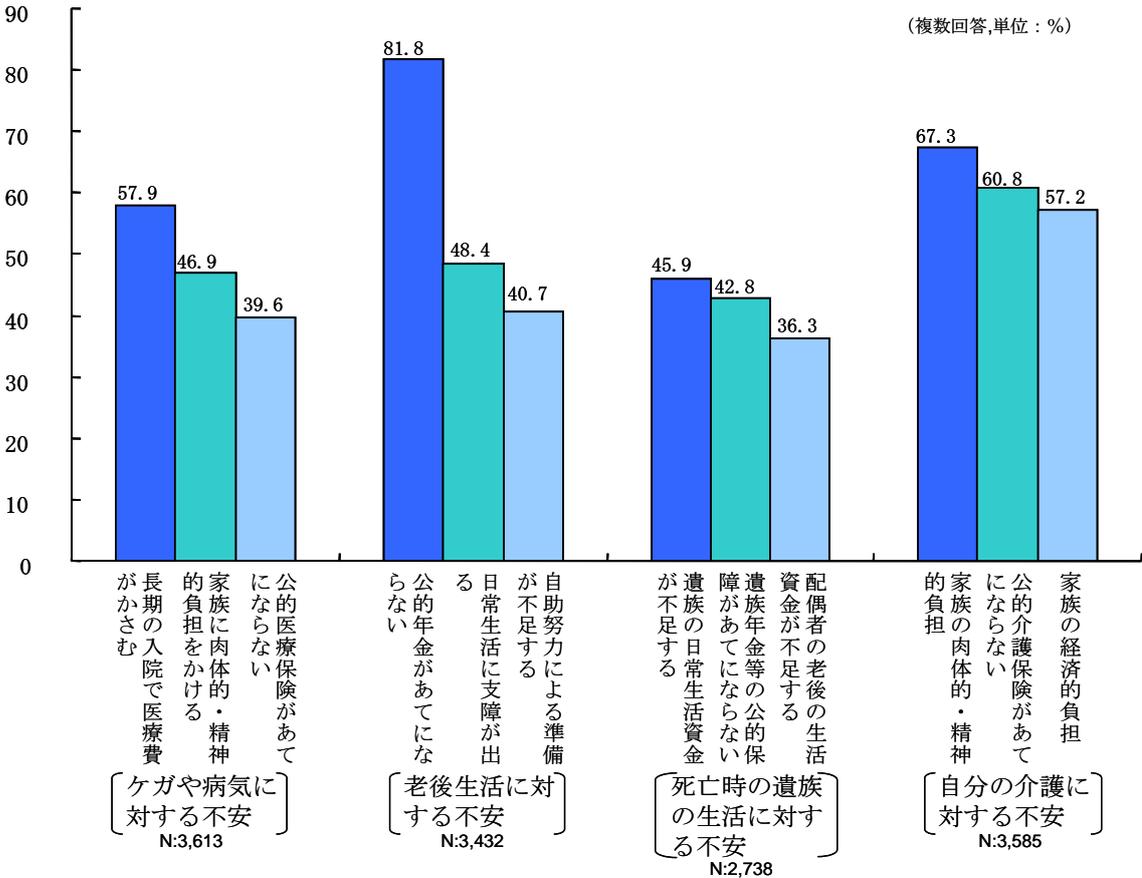
\*図表中の○は全体に比べて統計的に有意に高いことを示し、↑は年次間で有意差があることを示している。

②不安の内容は、公的保障などの経済的な不安が上位を占める

「不安感あり」とした人の具体的な不安の内容をみると、ケガや病気に対する不安では「長期の入院で医療費がかさむ」が 57.9%と最も高い。また、老後生活に対する不安では「公的年金があてにならない」(81.8%)、死亡時の遺族の生活に対する不安では「遺族の日常生活資金が不足する」(45.9%)、自分の介護に対する不安では「家族の肉体的・精神的負担」(67.3%) が最も高くなっている。

いずれの保障領域も、公的保障に対する不安などの経済的な項目が上位を占めている。

図表3 保障領域別の不安の内容（上位3項目）



\*保障領域毎に個別に質問した結果をまとめて掲載している。